

令和6年度「地域と学校の連携・協働体制構築事業」実績報告関係様式

●R6年度に本事業で重点的に取り組む課題に応じた目標等の設定様式

実施自治体名	課題の類型1	課題の類型2	背景・現状・課題の詳細	これまでの取組状況	左記課題の解決のために令和6年度に実施する具体的な取組	本事業で達成する目標（アウトカム）	目標の達成度を測る指標	現状の数	単位	目標値	本年度の実績値	アウトカムの達成度に関する評価・分析（事業における成果、課題、改善点等）
01544津別町	①学校運営上の課題	04 障害や困難を抱える児童生徒への対応	令和6年度の各小中学校特別支援学級児童・生徒数は、津別小学校29名、津別中学校19名となっており、例年、1教室2～3名の児童生徒を1人の教員が指導する実態となっている。突発的衝動的な行動への対応や、障がいの程度に合わせたマンツーマン指導・見守りをしなければ学習活動をしていくことが難しい児童生徒が各学年に一定数いることから、教員1人ではひとりひとりに応じた細やかな指導が難しいという課題がある。	・特別支援・共生社会サポーター(学習補助員)を各小中学校へ配置し、マンツーマン指導・見守りを必要とする児童生徒への細やかな指導を行っている。 ・学習補助員の存在のおかげで教員の業務負担の軽減にもつながっている。	・特別支援・共生社会サポーター(学習補助員)を各小中学校に派遣し、教員との連携により、児童生徒ひとりひとりに十分な個別支援を行う。 ・教員の業務負担軽減から、教員のゆとりをつくり、ひとりひとりに応じた細やかな指導を行う。	・マンツーマン指導・見守りを十分に行うことにより、児童生徒の学校生活にゆとりをもたせることができる。個別支援を行うことでいきいきとした学校生活を送ることができる。 ・特別支援・共生社会サポーター(学習補助員)を派遣することで、児童生徒の見守りの人員が確保でき教員の業務のゆとりができる。	特別支援・共生社会サポーター(学習補助員)と教員の連携により、教員にゆとりができ、児童生徒ひとりひとりに十分な個別支援が行えたことと回答する教員の割合(津別町教育委員会のアンケート調査)	70	%	70	77	03 本年度の目標値を達成し、課題の改善が見られた 特別支援・共生社会サポーター(学習補助員)と教員の連携により、77%の教員が児童生徒一人ひとりに関わる時間が増え、特別なサポートを必要とする生徒へ手厚い指導ができたという回答があった。令和5年度と比べると実績値が6%低くなっている。要因は特別支援が必要な児童生徒が増加しているため、更なる学習補助員の人員確保について課題である。教職員の業務負担軽減の観点からも期待できるため、今後も継続して雇用し派遣する必要がある。